

布施の難しや

布施というのは「布」分け隔てなく「施」ほどこすという意味です。つまり、見返りを期待しない（損得勘定のない）行いです。

私たちの日常には、地位や財産がなくても心掛け一つで誰もが簡単に周囲に幸せを与えることができ、自分も幸せになれる方法「無財の七施」があります。

眼施（がんせ）・和顔施（わがんせ）・言辞施（ごんじせ）・身施（しんせ）・心施（しんせ）・床座施（しょうざせ）・房舎施（ぼうしゃせ）

布施を実践することも大切です、自分も布施を受けることが大切。

それはもちつもたれつ、ではなく、自らの心身を調え、よりよい社会をクリエイトするため。布施（ダーナ）は「分け与える」というシンプルな実践。それだけ。そして、それを「させていただいた」へと転換する。ここがポイント。このような「自分のフォーム」を実践の中から育んでいく。

※実践困難な布施

『俱舍論』には、布施にならない七つの行為が説かれている。

「随至施」 ください、ください、とあまりしつこく乞われるので、断り切れずにする施し。

「怖畏施」 それをしないと、どうも具合が悪いことになりそうだと、恐れてする施し。

「報恩施」 かつての恩に報いるためにする施し。

「求報施」 施しをしておく、きつとお返しがあるだろうと、返礼を期待してする施し。

「習先施」 習慣であり、先例があるからといってする施し。

「希天施」 その功德によって、来世は天界に生まれたいと願ってする施し。

「要名施」 自分の名声を高めるためにする施し。

こうなると、ほとんど布施の実践など不可能ではないか、という気さえます。まさに自分が単なるうつわ状態でないと成立しません。